



中藤っ子

LOVERS

令和6年度

No. 4

福井市中藤小学校だより

発行日 令和6年 7月1日(月)

〒910-0837 福井市高柳 3-3001

TEL:54-3823 FAX:54-3874

盛夏の7月、その先の夏季休業へ

令和6年度が始まって3ヶ月が経ちました。1年の4分の1が過ぎ、夏季休業まで3週間を切りました。

昨年度から本校では、長期休業中の課題を見直し、児童の自主性を生かした課題に取り組んできました。そこで、今年度は、これまでの取組と授業再開までの学びの継続性を加味した課題を設定しました。まず、必須課題は、学校から配付した夏休みの友または問題集です。これは、児童に平等に課せられた「基礎基本の学力」を維持するものです。そして、自主課題は、ご家庭で話し合っ取り組むもので、例として市販の問題集や自主学習ノート、作文や図画ポスターの各種コンクール作品、理科に関する研究や作品等を挙げました。これらは、児童が自らの意欲によって個々の力を伸ばすものです。そのためには保護者の皆様の助言や励まし等の支援が重要になってくると思います。

また、夏季休業中は児童が地域で活動する時間が増えるときでもあります。今後とも、ご家庭や地域の皆様のご協力をお願いします。
(文責：勝木)



ある日の出来事から

いろんな教室について調べたよ

～ 1年生 生活科「学校探検」 ～

6月5日、1年生が、学校内の特別教室を探検しました。各学級とも音楽室・コンピュータ室・被服室・図書室・校長室を探検するAコースと、第1理科室・保健室・給食室・放送室・職員室を探検するBコースに分かれて、巡りました。

校長室では、「仕事は何ですか?」「校長室の顔写真は何枚ありますか?」など、児童は、以前に訪ねてきたときに疑問に思ったことを質問していました。職員室でもいろいろな先生に質問をしていました。



夢を実現するために大切なこと ～ 親子で学ぶ道德講座・PTA講演会 ～

6月14日、PTA講演会とタイアップして、「将来の夢をもつ」ことをテーマにした「親子で学ぶ道德講座」を開き、本県のプロバスケットボールチーム「福井ブローウィングス」の選手から話を伺いました。まず、チーム代表の方からは「バスケットボールを通じて、福井の次世代に誇りを生み出したい」と立ち上げたときの夢を伺いました。また、選手からは「夢を実現するために、あきらめないこと。挑戦し続けること」がメッセージとして伝えられました。

その後、身体じゃんけんやドリブル、シュートなどで選手と児童が対決したり、ミニバス児童とミニゲームが行われたりしました。

テレビでも拝見している選手との交流に、児童は目を輝かせながら過ごしていました。



ふだん見られないところを確かめて ～ 3年生 社会「お店の工夫」 ～

6月20～21日、3年生が、社会科「お店の工夫」の学習で、最近、近くにオープンした福井の食材を販売する直売場を訪問しました。直売場では、商品を売るための工夫や働いている人の様子を観察しました。また、バックヤードも見せてもらい、店頭と並ぶまでの商品の動きも見学しました。最後に疑問に思ったことを、お店の人に質問をしました。何気なく見ているお店の風景ですが、興味深く見学できたようでした。

「百聞は一見にしかず」。実際に、直接見て聞いて確かめることができました。



家庭・地域と連携して

～ 第1回家庭・地域・学校協議会 ～

6月24日、今年度、1回目の家庭・地域・学校協議会が開かれました。委員は、公民館長さん、自治会連合会長さんをはじめ12名です。まず、委員の委嘱を行った後、合唱の校内発表を参観していただきました。そして、会議室では、校長からスクールプランをもとに今年度の取組の説明があり、その後、意見交換を行いました。主に、登下校の安全について話し合いました。

これからも学校は、家庭や地域と連携しながら児童の成長を育んでいきます。



大ホールに歌声を響かせました

～ 6年生 市連合音楽会 ～

6月26日、6年生が福井市小学校連合音楽会に参加しました。学校では、会の運営のため音楽主任不在の中、最後の打ち合わせや練習をした後で、会場入りしました。

中藤小学校は、第4部の最終、大トリでした。次々と他校の合唱や演奏が終わる中、児童は落ち着いた様子で過ごしていたようでした。いよいよ出番です。笑顔で壇上に上がる児童が多かったです。合唱が始まり、これまでのすべてを出すかのような圧倒的な歌声でした。歌い終えた児童1人1人の顔はホッとした笑みを浮かべていました。児童のことをよく知る他校の先生方からもお褒めの言葉をいただきました。



大空と自然の中で学んできました！

～ 5年生 宿泊学習 ～

6月27～28日、5年生が2日間の宿泊学習のために、大野市にある奥越高原青少年自然の家へ出かけました。出発式では、日常とは違う大自然の中で過ごす中で、めあてをもって取り組むほか、自然が人間の自由にならないものであることを感じてほしいと伝えました。その後、代表の児童が誓いの言葉を述べました。

1日目のプログラムは、昼食をはさんでアイスクリーム作りや木エスプーン作り、自然観察体験を行いました。そして、夜はキャンドルサービスをしました。第1部の火の神と女神による、暗闇に包まれた厳かな儀式の後、第2部では、〇×クイズや爆弾ゲーム、フォークダンスやJ-Popダンスなど明るくはじける催しで、盛り上がりました。2日目は、あいにくの雨模様でしたが、児童は、屋根のついた炊事場でカレー作りに挑戦しました。ちょっぴり辛く大人のカレー味だったそうですが、たくさんおかわりした児童もいたようです。あっという間の2日間でしたが、疲れた表情の中に満足感や充実感が感じられました。



校長室から

～愛着・愛着障害について考える ①～

「愛着」とは、人が危険や不安・恐怖を感じたときに、他者にくっついたり接近したりすることによって安心感を得る心理のことを指します。この愛着の形には、人によって違いがあり、これを「愛着スタイル」と呼びます。愛着スタイルは、生まれ持ったものというよりは、後天的に自然と刷り込まれていくもので、主に乳幼児期の愛着経験、つまり養育者の接し方によって左右されます。近年、この「愛着スタイル」が対人関係を築く際のひな型のような役割を果たしていると考えられています。

表題にある「愛着障害（アタッチメント障害）」とは、不安型の愛着スタイルを持つことで、対人関係を上手に築くことができなくなってしまっているものを指します。愛着障害は、正確には「反応性アタッチメント障害（反応性愛着障害）」と「脱抑制型愛着障害」の2つの診断名に分類されます。

▼反応性アタッチメント障害（反応性愛着障害）

反応性アタッチメント障害の子どもは、無表情で笑顔があまり見られません。養育者だけではなく誰に対しても、抱きつくなどの愛着行動や興味を示そうとしません。また、不安や恐怖を察知したときにも、安心感を得る方法が限られてしまうため、特にストレスがたまりやすくなります。脱抑制型愛着障害に比べて、両親のネグレクトや虐待がひどい、または子育ての方法が大きく一般的なものから外れていることが原因となり、愛着形成ができていない場合が多いとされています。

▼脱抑制型愛着障害

脱抑制型愛着障害の子どもは、誰にでもしがみついたり、知らない人であっても気を引こうとしたりする傾向があります。暴れだして周囲を困惑させることも少なくありません。

反応性アタッチメント障害にも言えることですが、養育者がいなくなった、養育者の立場である人物がころころ入れ替わった、養育者が無関心であったといったことが原因となり、愛着形成ができていないことが多いとされています。

愛着障害について理解する上で、重要な観点となるのが「安全基地」という考え方です。（次号に続く）